

2030赤穂市総合計画の施策とSDGsとの関係性について

①SDGsの概要と意義

○SDGs(エスディーゼズ)とは、2015年(平成27年)9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」のことで、2030年(令和12年)を期限とする、先進国を含む国際社会全体の共通目標です。

○2015年(平成27年)までを期限としていた発展途上国向けの開発目標MDGs(ミレニアム開発目標)の後続として採択されたSDGsは、持続可能な世界を実現するための包括的な17のゴールおよび細分化された169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを理念とした経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に対する統合的な取組が示されています。

○わが国においては、2016年(平成28年)5月に政府内にSDGs推進本部を設置、同年12月には、SDGsの実施指針が決定されており、各自治体に対し、各種計画や戦略・方針等の策定の際にSDGsの要素を最大限反映するよう求めています。

○2017年(平成29年)12月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略2017改訂版」においても、地方でのSDGsの推進が地方創生に資するとして、SDGsを行政・民間事業者・住民等の異なるステークホルダー間における共通言語として活用することにより、政策目標の理解が進展し、自治体業務の合理的な連携の促進が可能であると示しています。

②SDGsと2030赤穂市総合計画

○2030赤穂市総合計画においては、「人」・「地域」・「団体」が一体となり、将来像である「自然と歴史に育まれ 笑顔と希望あふれる 活力のあるまち」の実現に向けて、「安心」・「快適」・「元気」・「人」からなる4つの柱のもと、10の政策とそれに基づく27の施策に取り組みます。

○2030赤穂市総合計画で取り組む方向性は、国際社会全体の開発目標であるSDGsとスケールは違うものの、その目指すべき方向性は同様であることから、2030赤穂市総合計画の推進を図ることで、SDGsの目標達成に貢献できるものと考えます。

(※2030赤穂市総合計画とSDGsの関係性は114～115ページの一覧表に示しています。)